



茨城は勝ち組である グローバル化のお手本



株式会社 日本経済研究所 地域本部

本部長 佐藤 淳

これからの日本経済は茨城県をお手本とすべきである。競争力の高い重厚長大産業を中心に、東京ではなく、世界を相手に成長を遂げている。研究開発や農業、食文化も力強い。日本全体が茨城化すれば、日本の未来は明るい。

茨城県は、日本経済の新しいモデルと言えるだろう。重厚長大産業と一次産業が成長を支えているためである。当該分野には偏見も残るが、日本がオンリー1のブルーオーシャン分野が多い。今後ますます重要性を増すだろう。

茨城県の1人当たり県民所得ランキングは全国5位（2010）に上昇した。関東では東京に次ぎ、神奈川よりも豊かだ。2005年は11位だったから、5年間で6つランクをあげたことになる。

1300年前の常陸国風土記から豊かだったとされるが、近年の好調さは工場立地が支えている。当該5年間（2005-2010）における茨城の工場立地面積は全国一である。日立建機やコマツなど建設機械メーカーが次々と工場を建設している。

その結果、茨城県における一般機械の実質GDPは2005年の4,796億円から2010年には9,424億円と倍増した。製造された建機は、世界中に輸出される。ドバイに象徴される新興国の都市化は茨城が支えている。

韓国に席卷された電機機械でも、茨城は堅調である。サムソンが得意とする電子ではなく、重電が主体なためだ。さらに数年後には日野自動車の古河移転が完了する。茨城の一人勝ちは今も続くだろう。

茨城経済の好調さは、重電や建設機械、鉄鋼、化学、自動車など、重量級の産業こそ競争力が強いことを示唆している。これからの日本は、これらの産業群が中心となるのではないか。そうなれば、茨城県は日本経済を牽引する機関車やリーダーとして再認識されるだろう。

工場だけではない。つくば市に象徴されるように、研究所も茨城県に数多く立地している。茨城県における自然科学研究者と技術者（除：SE、プログラマ、土木測量建築）の就業者に占める比率は、全国で二番目に高い（神奈川県に次ぐ）。日本の貿易収支は赤字基調になってきたが、技術収支の黒字は増え続けている。イメージとは異なるかも知れないが、日本経済は、（茨城県の）研究所やイノベーションが支えているのである。

さらに、一次産業や食文化も茨城は実力がある。農業産出額は北海道に次いで多い。魚の漁獲量も全国6位、関東1位である。何故銚子を有する千葉より漁獲量が多いかというと、漁獲量は船籍地で数えるためである。茨城の漁船は日本初のHACCP対応運搬船を有するなど進んでおり、新鋭船で全国を回り各地の港に水揚げしている。隣の銚子に揚げているケースも少なくない。

食文化面でも侮れない。納豆や「しもつかれ」

もいいが、全事業所に占める料亭のウエイトは、全国12位にランキングされ、関東では1位と、（意外にも）料亭が多いのである。農水産業と食文化に優れていることは、6次産業化による成長ポテンシャルが高いことを示している。

また、観光にも強い側面を有する。国民宿舎「鶴の岬」は全国NO1の稼働率を誇り、茨城空港はLCCのメッカとなりつつある。中長期的には、シェールガスやメタンハイドレートによるエネルギー価格の下落で、エアラインが長距離バス並みの価格となるとの見方もある。もしそうなれば、茨城空港の評価も一変するだろう。

さて、茨城県は、最も基本的な経済指標である人口は減少しているし、若者が多い訳でもない。また重厚長大型の産業が多く、ITに代表される軽薄短小化やサービス産業化のトレンドには乗り遅れてきた。最近の派手な話題は、2005年のつくばエクスプレス開業ぐらいで、このタイミングが1人当たり県民所得上昇と重なることから、東京との直結が成長要因と思われてきた。

しかし、ここまで分析してきたように、その内実は異なる。軽薄短小ではなく、重厚長大が、東京ではなく、海外が、茨城経済成長のエンジンであった。国際競争力が強い産業の集積によって成長を果たしたのである。

地方（ローカル）が世界（グローバル）と直接繋がるグローバルな時代と言われて久しい。それを真っ先に実現したのが意外にも（失礼）茨城県だったのである。グローバル化に必要なのは、語学ではない。どんな産業が世界から求められ優越しているのか、広い意味でのマーケティングこそ重要である。これは、差別化を重視するブルーオーシャン戦略として知られている。

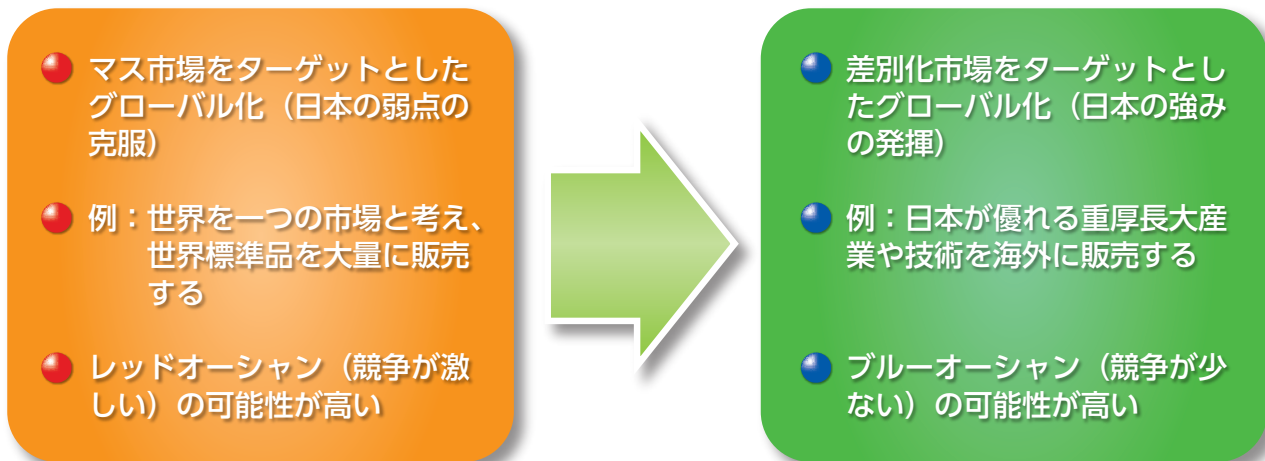
我が国の国際比較では何故かそんな基本的なマーケティング原則は忘却され、競争が激しいレッドオーシャン分野の優劣のみが話題となる嫌いがある。

そんなステレオタイプな発想こそが、国際競争力上のマイナス要因であることは、もっと認識されるべきであろう。茨城経済には、日本国民が参考にすべき事柄が詰まっている。

表 茨城県の経済指標ランキング

分野	国内順位	関東順位
1人当たり県民所得 (2010)	5位	2位
工場立地面積 (2005-2010)	1位	1位
研究者・技術者*/就業者 (2005)	2位	2位
農業産出額 (2011)	2位	1位
料亭数/事業所数 (2006)	12位	1位

* 除：SE、プログラマ、土木測量建築



■ 図 グローバル化の捉え方